
世界の果て

Y

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

世界の果て

【Nコード】

N8389V

【作者名】

Y

【あらすじ】

小さな頃私を阻んでいた大きな障害が、後になるとなんでもないものだったと気づいたり、何あの時の自分は必死になってんだろって冷静になったり。
そんな話。

小さな頃の私に見えていた世界はとても小さなものだった。

大きな緑地公園にある芝生と砂はマグマで、触れたらゲームオーバーという設定でどこまで行けるか一人旅を始めた私。

少しくらいのマグマは助走をつけたジャンプで飛び越え、どうしても超えられないマグマがあればやむを得ず、ルートを変えてひたすら進む。

ルートを変えても行き詰った場合は、あらかじめ駄菓子屋で調達しておいたビニールの袋に石ころをたくさん詰め、それをマグマの上に投げて足場にして進んでいった。

この時の私は「これは革命だ！」とはしゃいだ。

当時の私は石ころさえあればどこへだって行けると思っていたのだ。

そうしてたどり着いたのは公園を囲う金網……公園の終わり、そこが私の世界の果てだった。

どうしてもそれを越えることができなかった当時の私はとてもくやしがっていたことをよく覚えている。

中学生にもなると、友達と自転車で遠いところまで行くようになった。

友達と遊んだある日の帰り道、私はふと例の公園……あの金網に出会った。

世界の果てを越えたその先が知りたくて、私は自転車を放り金網を乗り越えた。

凄く苦戦したが、息を切らしながら一生懸命に金網を登った。

そして超えた先は何でもない、ただの隣町。
こんな金網など越えなくても、少し回り道をすればすぐにたどり着ける場所。

どうやら小さな頃の私には、身体的にも頭腦的にもあの金網が世界の果てだったようだ。

家に帰ると、テレビがついていた。
どこか外国のドキュメンタリーのような、長い長い砂漠の映像がテレビに映る。

急に私は、なんだか悲しくなった。

あの砂……あの量のマグマはどれだけ石ころを持っていても駄目だろうな、と。

それと同時に、昔の私はなんて馬鹿らしいことをしていたのだろうと、年相応にクールに決めてみたりした。

そして、そうやって昔の自分を馬鹿にできる自分がちょっとだけ大人になったように思えた。

今、私はまた成長をした。

小さな頃超えられなかったマグマに、石ころを足場に使っていたあの場所。

今ではぴょんつと一飛びで超えられる。

あんなに高かった金網も、簡単に乗り越えられた。

そして今私は、あの時みた砂漠にいる。
とても暑い。

担いだリュックサックには大量の石ころ。

……そう、今から私はこの広大なマグマを超える。

子供の頃夢見た、石ころでどこまでも行けると信じたあの気持ち。
この砂漠をテレビを見て絶対超えられないだろうな、と思ったあの時の私。

そんな小さな頃の私、あきらめた私、そして今の私。

さあ行こう、世界の果てへ。

小さな頃のあの革命を、もう一度起こすんだ――

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8389v/>

世界の果て

2011年10月7日15時15分発行